１４．　将来に向けて大切にしたい価値

第2回検討会資料

①．　将来に向けて大切にしたいモノ・コト

- 対象エリア近傍には重要文化財（国指定）が2件、札幌景観資産（市指定）が6件立地している。
- その他、大通公園のイベント等によるにぎわい、都心部にうるおいを与える自然・オープンスペースとしての大通公園、テレビ塔といった受け継ぐべき価値が集まっている。

重要文化財(国指定)

札幌市資料館

札幌景観資産(市指定)

出典：札幌市HP

旧藪商事会社ビル
(現：三誠ビル)

札幌景観資産(市指定)

出典：札幌市HP

永井邸

重要文化財(国指定)

時計台

札幌景観資産(市指定)

出典：札幌市HP

旧市民会館前のハルニレ

札幌景観資産(市指定)

出典：札幌教会礼拝堂HP

日本基督教団札幌教会
礼拝堂

札幌景観資産(市指定)

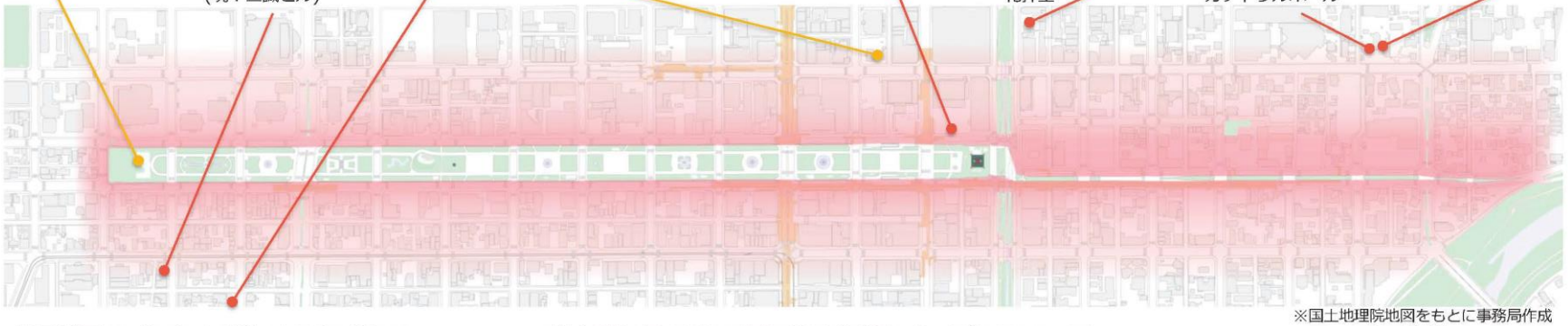
出典：札幌市HP

カトリック北一条教会司祭館
カテドラルホール

札幌景観資産(市指定)

出典：札幌市HP

カトリック北一条教会聖堂



※国土地理院地図をもとに事務局作成

大通公園のイベント等によるにぎわい

季節に合わせて開催される様々なイベント

都心部にうるおいを与える自然とオープンスペース

公園内の噴水

春

夏

遊びの空間（プレイスロープ）

秋

冬

テレビ塔

テレビ塔を見る

テレビ塔から見た大通公園

※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用したもの

15．周辺地区との広域的な繋がり

②．周辺地区との広域的な繋がり

- はぐくみの軸は様々な特性を持つエリアを繋ぐ軸となっている。今後も一つの軸として、沿道と公園との一体感の創出など統一した方針を保持しつつ、様々な要素や周辺の資源との　繋がりを生み出す役割を強化していくことが重要と考えられる。

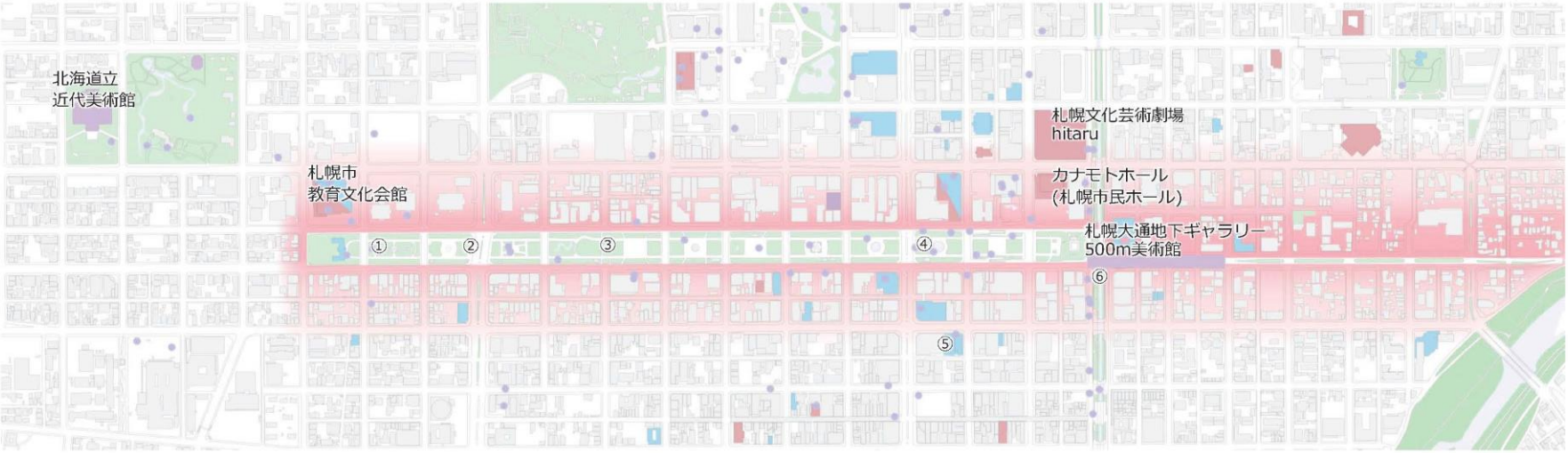
※対象エリアの図示については沿道の建物の状況を示すため、便宜的に図示している

16．芸術文化の集積

第2回検討会資料

③ 対象エリア周辺に集積する芸術・文化の拠点

- 対象エリア近傍には、文化ホールなどの施設や美術館など芸術に関連する施設が複数立地しており、はぐくみの軸を特徴づける芸術・文化の拠点が立地している。
- 大通公園内を中心に、彫刻などの芸術作品も数多く点在しており、エリア全体で芸術・文化を身近に感じる事ができる。



※国土地理院地図をもとに事務局作成

凡例　文化・芸術関連施設
- 美術館
- ギャラリー
- ホール・ライブハウス
  映画館・劇場
- 芸術作品等

彫刻などの芸術作品出典：
札幌散策HP（2009年調査結果より）

芸術・文化関連施設

北海道立近代美術館

札幌大通地下ギャラリー
500m美術館

札幌市教育文化会館

出典：札幌観光協会HP

札幌文化芸術劇場
hitaru

カナモトホール
(札幌市民ホール)

出典：札幌市HP

芸術作品等

若い女の像
（図中①）

マイバウム
（図中②）

ブラック・スライド・
マントラ（図中③）

泉の像
（図中④）

元気地蔵
（図中⑤）

生棒
（図中⑥）

※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用もしくは事務局にて撮影したもの

１７．　沿道低層部の状況

第2回検討会資料

④－１．沿道建物低層部の用途

- 沿道建物は１階からオフィスとなっているものが多く、賑わい醸成に資する飲食店や物販店などは駅前通から創成川付近以外には数件点在するのみである。
- ２階ではさらにオフィスの割合が増加し、現状建物では低層部における大通公園との一体感が欠けていると考えられる。

④－２．駐車場出入口による沿道の街並みの分断

- 大通に面して駐車場の出入口が設置されている一般利用可能な駐車場が11件、月極・契約者専用駐車場が40件、その他駐車場が3件、合計54件と多く面しており、沿道の街並みの分断や、歩行者との錯綜の要因となっている。

１階用途色分け図

※国土地理院地図をもとに事務局作成

２階用途色分け図

※国土地理院地図をもとに事務局作成

凡例　沿道建物用途区分

- オフィス
- 物販店
- 飲食店
- コンビニ
- 公共施設
- 教育機関
- 医療機関
- 駐車場
- サービス
- ホテル
- 銀行
- 住宅・マンション
- その他
- 一般利用可能駐車場
- 月極・契約者専用
- その他

<参考>

大通Tゾーン札幌駅前通地区まちづくりガイドラインにおいては、賑わいが連続するまちなみ形成のため、低層部におけるファサードの参考イメージが示されている。

Tゾーン駅前通沿道地区まちづくりガイドライン
（令和元年6月 Tゾーン駅前通沿道地区まちづくり協議会）

18．交通に関する事項

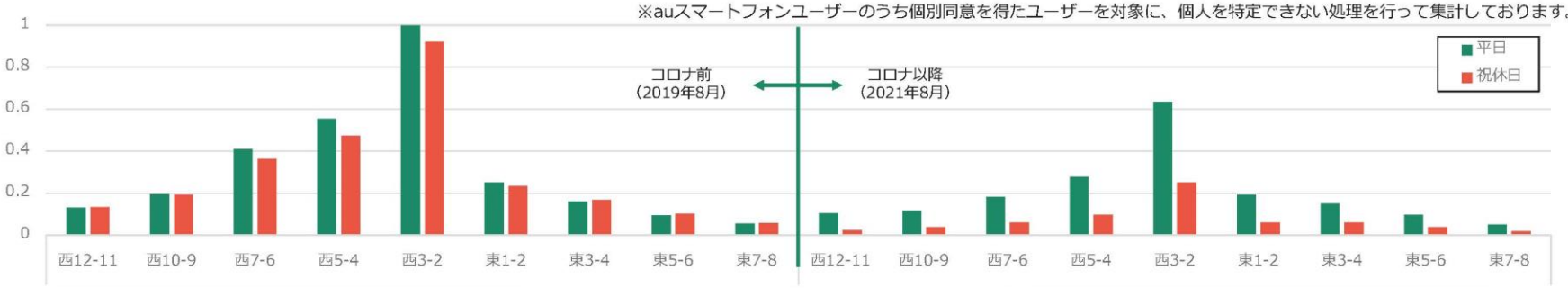
第2回検討会資料

⑤－１．歩行者交通（人流データ、ゾーン間東西移動）

- 位置別の平均人口の調査結果によると、はぐくみの軸内の歩行者交通量は西1～西5丁目に集中しており、そこから東西に離れるにつれ歩行者交通量が減少していくことが読み取れる。ここから、大通と札幌駅前通の交差点付近に人流が集中している一方、東西への波及は限定的となっていると考えられる。

1日あたりの歩行者数（データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」による推計値において、2019年8月の西2-3丁目を1とした比率）

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。



西11丁目駅周辺
- 大通駅周辺の半分以下である

大通駅周辺
- 他エリアと比べ突出して多い

バスセンター前駅周辺
- 平日/休日の値は西11丁目駅周辺より少ない

⑤－２．自転車について（公共駐輪場、ポロクルポート）

- 公共駐輪場は地下鉄駅付近に、ポロクルポートは大通公園周辺に分散的に配置されている。

※国土地理院地図をもとに事務局作成

18．交通に関する事項

⑤－３．駐車場出入りの実態、想定される必要駐車場台数

- 札幌市では平成２７年に駐車場利用実態調査を行い、都心部の自動車交通量の減少や駐車場利用台数の減少等が明らかになった。そのため、建築物における駐車施設の附置等に関する条例（＝附置義務条例）を改正し、駐車場整備地区内の附置義務駐車場台数に係る要件を緩和した。

① 駐車場整備地区内の、すべてが特定用途の建物の駐車場の附置対象となる面積が1,500㎡→2,000㎡
② 店舗や事務所の用に供する部分：200㎡ごとに1台→300㎡ごとに1台
③ ②以外の特定用途の用に供する部分：250㎡ごとに1台→500㎡ごとに1台
④ 非特定用途の用に供する部分：400㎡ごとに1台→600㎡ごとに1台
※②～④は駐車場整備地区内の建築物

■駐車場利用実態調査の概要

- 札幌都心部の駐車場（商業施設・事務所系ビル、時間貸し駐車場等）を対象として、平日・休日の各１日、7時台～20時台の1時間毎の「駐車台数」を調査

調査時期　平日：平成27年10月　休日：平成２７年１１月

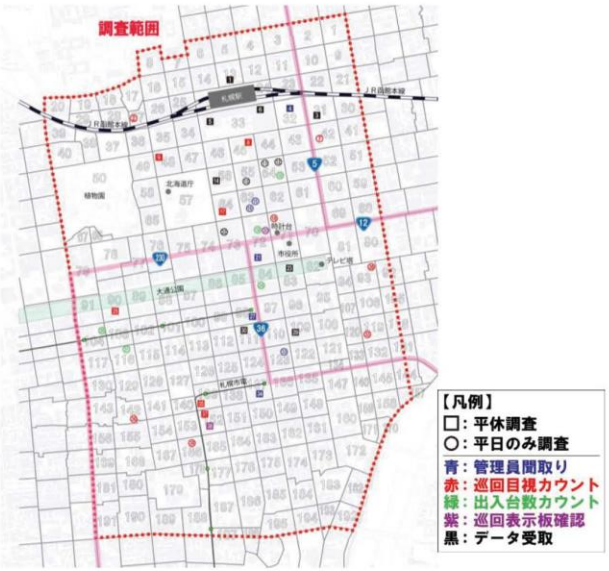
- 平日調査は38箇所、休日調査は19箇所で実施

エリア毎の調査箇所数

	札幌駅周辺	大通周辺	すすきの周辺	合計
平日調査	17	13	8	38
休日調査	9	6	4	19

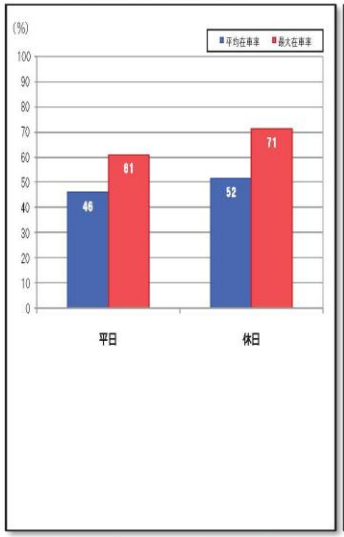
- 駐車台数は、１時間毎に「駐車台数の目視カウント」や「駐車場管理員からの聞き取り」等を実施して把握

調査箇所図

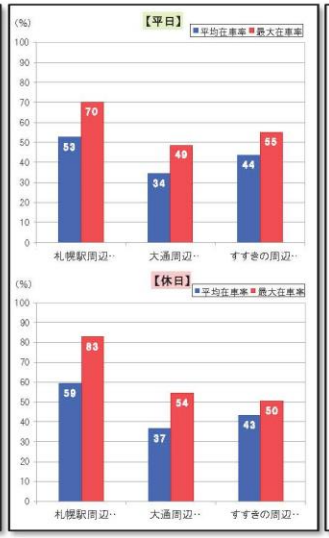


■駐車場利用実態調査結果（抜粋）

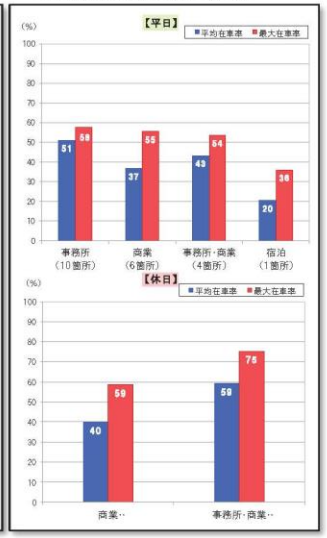
平均・最大在車率（全調査箇所の合計）



エリア別の在車率



建物の用途別の在車率（時間貸し駐車場を除く）



■駐車場利用実態調査結果のまとめ（抜粋）

- 休日の方が平日よりも在車率が高い傾向にあるが、全体的には、駐車場に余裕がある状況
- エリア別では、「札幌駅周辺」の在車率が比較的高い（休日最大在車率：約83%）が、「大通周辺・すすきの周辺」は、特に駐車場に余裕がある状況（平日・休日の最大在車率：60%未満）
- 用途別では、平日は「事務所」の在車率が高く、休日は「事務所・商業」の在車率が高いが、最大でも75%程度とやや余裕がある状況

駐車場の利用実態を踏まえて附置義務条例を改正（平成31年（2019年）1月1日施行）

19．敷地内の空地の活用

第2回検討会資料

⑥．沿道の敷地内の空地　※誰でも利用可能なスペース

- 創成川以東においては、駐車場などは多いが気軽に使える敷地内の空地自体が少ない。
- 西1～西4丁目付近においては、公開空地が整備されている建物が複数あるものの、一般に周知され、誰もが気軽に使える空間とはなっていない。
- 西5丁目以西においては、敷地内に一定の空間はあるものの、一般に周知され、誰もが気軽に使える空間とはなっていない。

※国土地理院地図をもとに事務局作成

札幌第３合同庁舎
札幌家庭裁判所

札幌第２合同庁舎

札幌大通4丁目ビル
・歩道沿い空地（地区計画）

札幌市本庁舎
・有効空地（特定街区）

パークホームズ札幌大通東
・歩道状空地（地区計画）

札幌スポーツクリニック
・歩道状空地（地区計画）

札幌市教育文化会館

札幌高等裁判所

北洋大通センタービル
・歩道沿い空地（地区計画）

明治安田生命札幌大通ビル
・歩道沿い空地（地区計画）

アルファタワー南1条
・歩道状空地（地区計画）

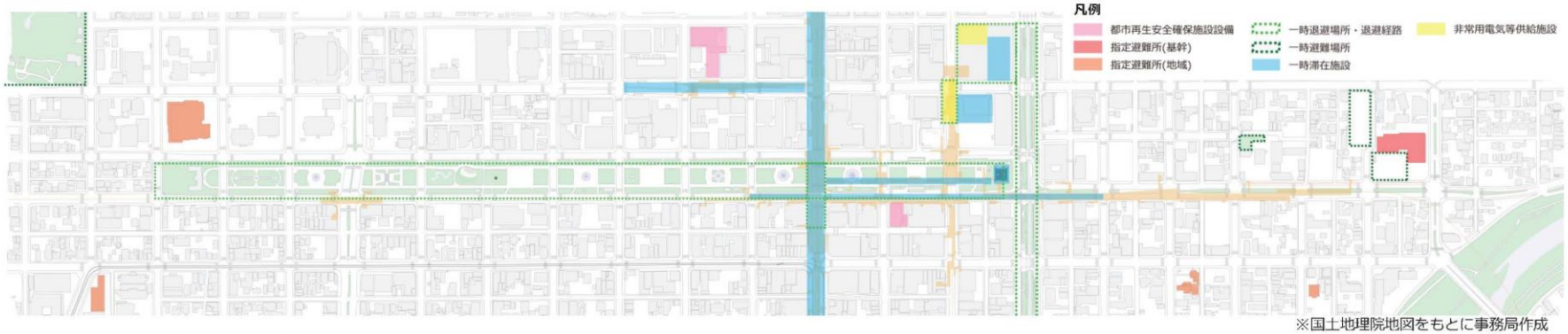
※全て事務局撮影

20．災害対応能力関連

第2回検討会資料

⑦－１．沿道の災害対応能力（主に地震時を想定）

- 大通公園を含むすべての公園を一時避難場所として指定している。
- はぐくみの軸周辺においては、札幌駅前通周辺と大通の東部・西部の周辺とで避難の役割が異なっており、
  屋外滞留者を1～数日間受け入れるための一時避難施設等：大通と札幌駅前通の交差点周辺に集中／指定避難所：西13丁目と東6丁目に1箇所ずつ　となっている。
- 札幌都心部において、発災時の帰宅困難者数は、雪まつり開催時に最大９万６千人に達することが試算されており、そのうち3万8千人の屋外滞留者が発生すると想定されている。
  （札幌駅・大通駅周辺地区都市再生安全確保計画 2014年策定 2021年改定）



※国土地理院地図をもとに事務局作成

⑦－２．その他災害への対応

＜水害対策＞

- 地下施設の多い対象エリア周辺では、水害対策にも注意を払う必要がある。
- 札幌市水防計画（R3.2）において、『浸水想定区域内の地下街等の利用者の洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保及び浸水の防止を図る必要があると認められる施設の範囲』として、各種地下街や地下鉄駅舎、札幌駅北口地下通路、札幌駅前地下歩行空間等が指定されている。
- 大規模施設建設に伴い、雨水貯留施設等の雨水流出抑制施設の設置を誘導している。
- 緑地・公園（大通公園を含む）を維持・保全することにより、雨水の地下浸透を促し、雨水排水施設の負担の軽減に貢献している。

＜各種災害対策＞

- 札幌市では「札幌市強靭化計画（2019年度～2023年度）が策定され、災害に強いまちづくりを目指す札幌市の取組方針が示されているが、都心の開発等に焦点を当てた具体的な対応施策については示されていない。

重点方針１	大規模停電対策
取組①	都心におけるエネルギー供給環境の強化
取組②	多様なエネルギー源の活用
取組③	市有施設等の非常用電源の整備
取組④	確実な廃棄物処理体制の構築
重点方針２	建築物、インフラ、大規模盛土造成地の対策
取組①	建築物の強靭化
取組②	インフラの強靭化
取組③	大規模盛土造成地の安全性評価
重点方針３	市民や観光客等に安全・安心を提供する環境づくり
取組①	避難場所機能の強化
取組②	市民や観光客等への情報発信の強化

■災害対応施設事例：イケ・サンパーク（東京都・池袋）

火災の延焼を防ぐシラカシによる防火樹林帯などのある、区内最大の防災機能を備えた公園
首都直下地震等の大規模災害の発生時には、豊島区の災害対策拠点として機能する他、平時から物資集積拠点運営訓練等の地域の防災力を高める活動の場となっている

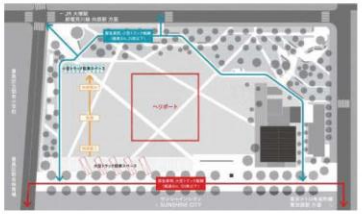
非常時に稼働する機能
- 一時避難場所
- ヘリポート
- 救援物資集積拠点

その他整備されている防災機能
- 給水施設
- 応急給水施設（飲料水）
- 防災井戸（生活雑用水）

通常時

- 電源設備
- イベント用電源
- ソーラー電源

- その他
- 非常用トイレ
- 備蓄倉庫
- かまどベンチ
- 非常用公衆電話　等



非常時

21．周辺の開発動向

第2回検討会資料

⑩．周辺の開発動向

- 西1～4丁目の大通公園の南側や創成川以東に現在検討が進んでいる開発が複数存在している。
- 対象エリア周辺の建物名称で『大通公園』とつくものは約60件あり、公園から離れた場所でも東4丁目付近から西20丁目付近まで見受けられた。
  これは建物名称に『大通公園』がつくことで、価値が高まると広く認識されている事の現れであると捉えることができる。（事務局調べ）

※国土地理院地図をもとに事務局作成

整備済の建物

札幌大通西4ビル
延床面積：約8,300㎡
竣工　　：H25,4
地区計画

北洋大通センター
延床面積：約59,000㎡
竣工　　：H22,3
地区計画

明治安田生命札幌大通ビル
延床面積：約8,300㎡
竣工　　：H27,1
地区計画

さっぽろ創世スクエア
延床面積：約131,000㎡
竣工　　：H30,5
第一種市街地再開発事業
都市再生特別地区

大通東やまむらセンタービル
延床面積：約6,200㎡
竣工　　：H28,3
地区計画
優良建築物等整備事業

※出典の記載のない画像は、事務局にて撮影したもの

22．　冬の状況

⑪－１．　冬の資源

- 都市空間が雪に覆われた風景は、札幌独特の美しい景観を生み出している。
- 雪まつりやスノースポーツフェスタなど、冬季ならではのイベントも数多く開催され、冬の風景は札幌を象徴する重要な資源となっている。

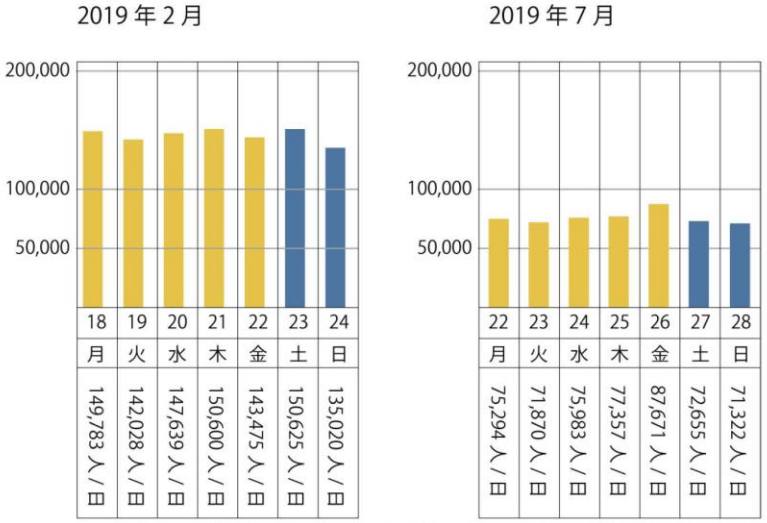
冬の大通公園

さっぽろ雪まつり

ミュンヘンクリスマス市

⑪－２．　冬の地下歩行空間の交通量

- 2019年の冬(2月)と夏(7月)の地下歩行空間の歩行者交通量を比較すると、冬の歩行者交通量が夏の約2倍となっており、夏は地上を歩く人が多い一方、冬は地下を歩く人が大幅に増加することが想定される。



※グラフの人数は地下歩行空間内の4か所に設置されたセンサーが感知した歩行者の合計値

出典：札幌市ICT活用プラットフォーム DATA-SMART CITY SAPPOROより、事務局作成

⑪－３．　冬の課題

- 沿道建物低層部が雪を避けて利用できる設え（ピロティ空間、庇 等）となっておらず、冬季においては建物と公園の一体性がより低下する。

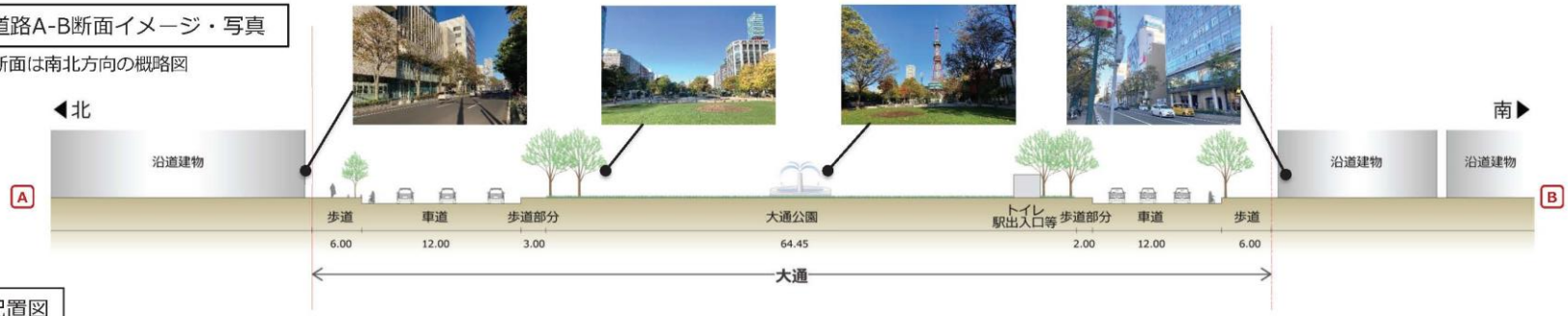
※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用したもの

1．　西Aゾーン

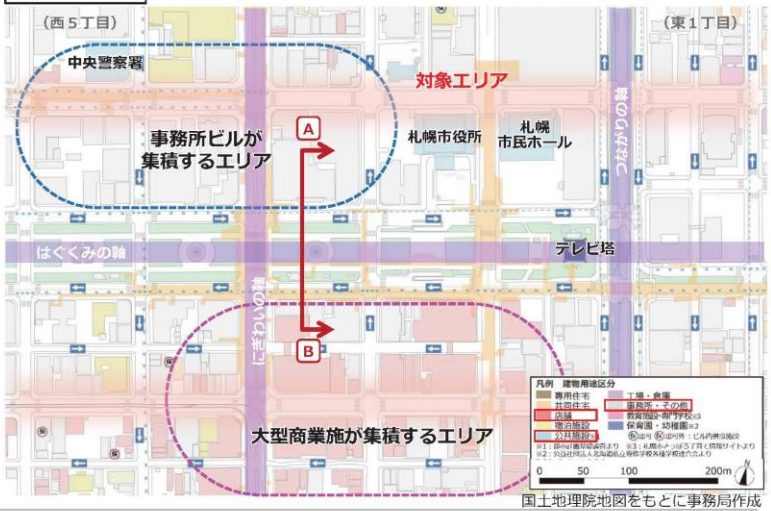
西Aゾーン
第1回検討会資料

現況道路A-B断面イメージ・写真

※道路断面は南北方向の概略図

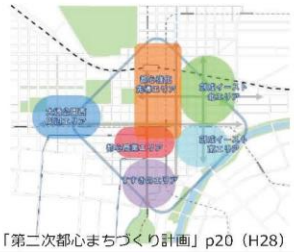


現況配置図



国土地理院地図をもとに事務局作成

- 第2次都心まちづくり計画上、「大通・創世交流拠点」に位置付けられ、「都心強化先導エリア」「都心商業エリア」も含まれている。
- 「大通交流拠点地区」「創世交流拠点地区」の地区計画が設定され、建物の更新が進んでいる。



出典：札幌市「第二次都心まちづくり計画」p20（H28）

- 札幌の観光スポットである大通公園西３丁目や、ランドマークの一つであるテレビ塔があり、観光のシンボルとなっている。

テレビ塔

大通公園西３丁目

- 様々な企業の本店、本社のほか、市役所などの行政機関、多くの商業施設が集積しており、都心の中でも、ビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーンである。

オフィスビルの連続

大型商業施設の集積

- 「札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）」「さっぽろポールタウン」「さっぽろオーロラタウン」が地下に展開し、地上・地下の回遊性を有する空間となっている。

ポールタウン

オーロラタウン

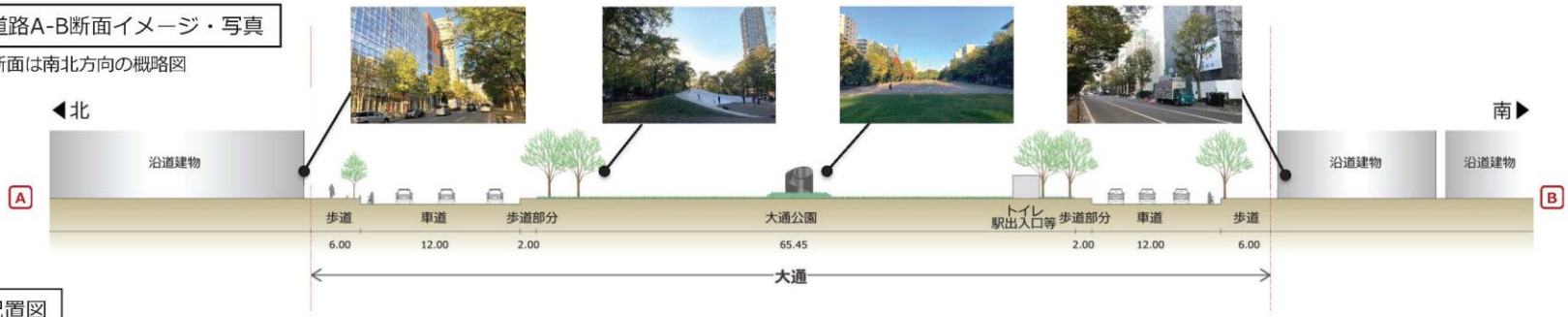
チ・カ・ホ

※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用もしくは事務局にて撮影したものです。

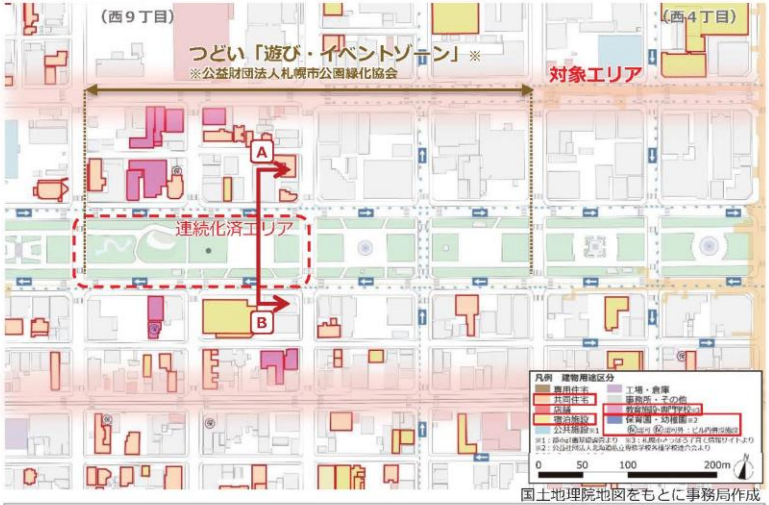
2．　西Bゾーン

現況道路A-B断面イメージ・写真

※道路断面は南北方向の概略図



現況配置図



国土地理院地図をもとに事務局作成

- 「遊び・イベントゾーン」では、ブラックスライドマントラなどの遊具や水遊びのスペースなどが配置され、子供連れや周辺の教育施設の学生といった若い世代が集まり、交流するスペースが生まれている。
- ブラックスライドマントラの整備に併せて、西8丁目～9丁目の大通公園が連続化されており、一体的な公園空間が広がっている。

ブラックスライドマントラ

水遊びスペース　出典：大通公園HP

プレイスロープ　出典：大通公園HP

- 沿道では、企業のオフィスも集積しているが、集合住宅・ホテル・教育施設なども立地しており、多様な用途が混在したゾーンである。
- また、街区単位での土地利用がされているケースは見受けられず、各敷地単位の個別利用が大半を占めている。

沿道に並ぶ集合住宅・専門学校

札幌ビューホテル
出典：札幌ビューホテルHP

- 近年対象地近辺の世帯数増加に伴い、子供の人口も増加傾向にある

対象地付近の世帯数と子供の数の推移

※各年1月1日のデータを採用。年少人口（0～14歳）の合計値を採用。

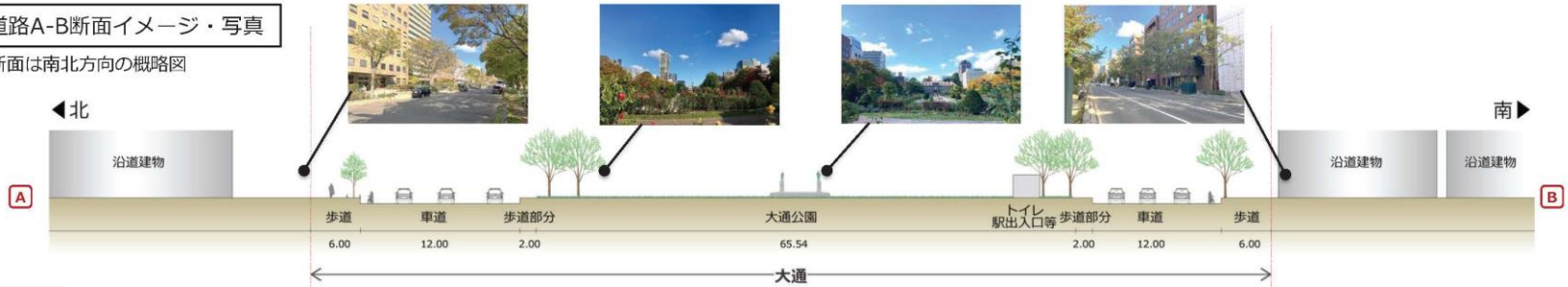
出典：札幌市「住民基本台帳」(R3.9)、「札幌市統計区域図」(H30.11)を基に作成

※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用もしくは事務局にて撮影したものです。

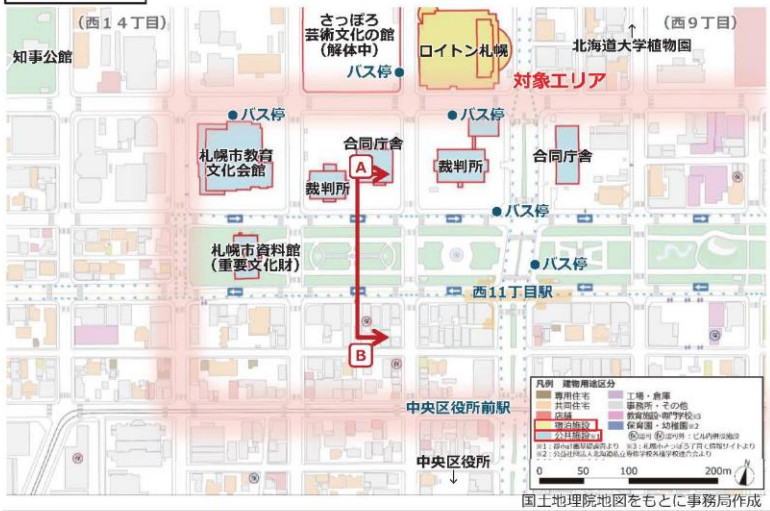
3．　西Cゾーン

現況道路A-B断面イメージ・写真

※道路断面は南北方向の概略図

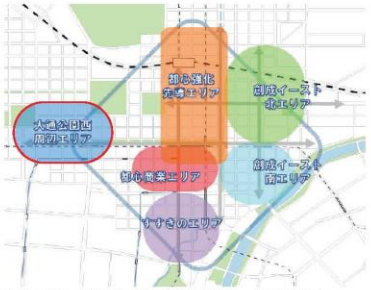


現況配置図



国土地理院地図をもとに事務局作成

- 第2次都心まちづくり計画上、「大通公園西周辺エリア」に位置付けられ、集客交流機能の強化や、文化芸術・歴史資源の都市観光等への活用を目指している。



出典：札幌市「第二次都心まちづくり計画」p20（H28）

- 札幌市資料館を背景にサンクガーデンが広がる美しい空間となっている。

出典：大通公園HP

- 文化芸術施設、歴史資源のほか、ホール、ホテル等の集客交流施設が立地しているエリアである。また、地下鉄西11丁目駅、市電中央区役所駅前駅、複数のバス停留所があり、交通利便性が高いゾーンである。

・東西線　西１１丁目駅

・市電　中央区役所前駅

- 文化芸術施設、歴史資源等

・教育文化会館
出典：札幌市民交流プラザHP

・知事公館

・札幌市資料館と前面に広がるサンクガーデン
出典：大通公園HP

- 公共施設

・札幌高等裁判
出典：裁判所HP

・中央区役所
出典：札幌市HP

- ホール、ホテル等の集客交流施設

・ロイトン札幌
<集客交流施設>
会場数：20
最大収容数
シアター：2014人
スクール：1134人
立食：2000人
着席：1260人

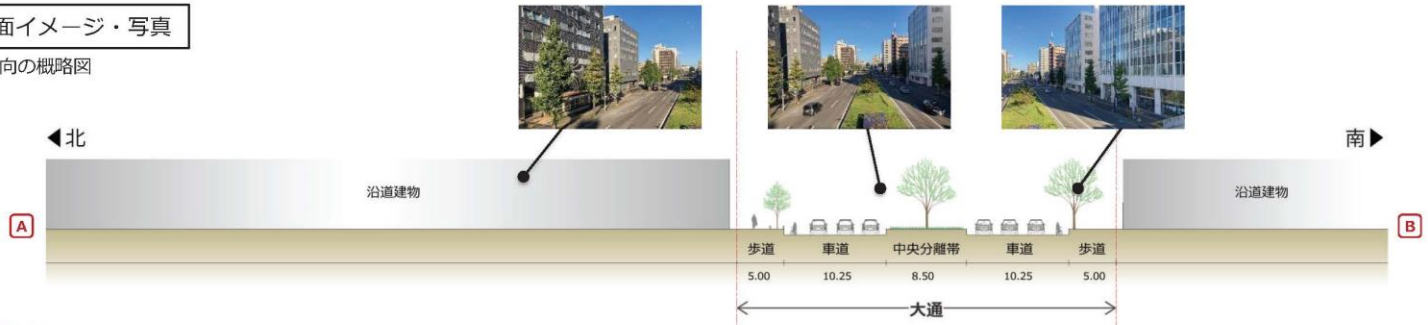
出典：札幌市HP

※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用もしくは事務局にて撮影したものです。

４．　東ゾーン（西側）

現況道路A-B断面イメージ・写真

※道路断面は南北方向の概略図



現況配置図

国土地理院地図をもとに事務局作成

- 第2次都心まちづくり計画上、「大通・創世交流拠点」に位置付けられ、創成川の東西をつなぐゲート空間としての整備などを目指している。

出典：札幌市「第二次都心まちづくり計画」p16（H28）

- 創成川通アンダーパス連続化事業に伴い生み出される地上部に、水と緑を生かした創成川公園や創成川の東西市街地を繋ぐ道路が整備され、創成川以西から以東への人の流れを創出する基盤となった。

・創成川公園

- 大通と創成川の交点に位置し、バスセンター、地下鉄バスセンター前駅が立地しているほか、地下鉄コンコースが東西にわたって整備され、交通結節点となっているゾーンである。

・大通バスセンター
出典：丸紅リアルエステートマネジメントHP

・地下通路（500m美術館）
出典：札幌市HP

- 地域内の神社では、境内を利用した地域活動が行われているほか、近傍には二条市場といった地域資源がある。

・頓宮例祭　秋まつり
出典：さっぽろ下町づくり社

・神宮マーケット
出典：北海道マガジン　カイHP

・二条市場

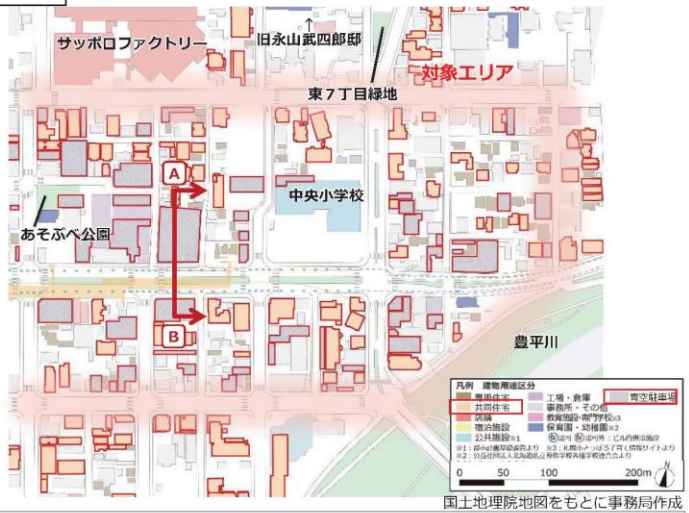
※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用もしくは事務局にて撮影したものです。

5．　東ゾーン（東側）

現況道路A-B断面イメージ・写真

※道路断面は南北方向の概略図

現況配置図

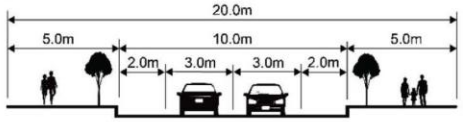


国土地理院地図をもとに事務局作成

- 第2次都心まちづくり計画上、「創成東地区」に位置付けられ、都心の利便性を享受できるような職・住・遊近接のまちを実現する暮らしの場の創造や、エリアマネジメント活動を通じた歴史資源、産業史資産等の付加価値向上と活用などを目指している。

出典：札幌市「第二次都心まちづくり計画」p20（H28）

- 今後予定されている東4丁目通の整備では、人の回遊・交流を支える人を中心とした空間の形成のため、４車線から２車線に削減され、地域内の歩行環境の向上が図られる。



・新規の道路の断面構成

出典：第111回札幌市都市計画審議会 説明資料

・実証実験の様子　　出典：さっぽろ下町づくり社HP

- 共同住宅の建設が進み、都心居住の受け皿となっているゾーンである。
- 公園が少なく、パブリックスペースや緑が不足しているゾーンである。

・中小規模の住宅・事務所（東7丁目）

・共同住宅（東6丁目沿道）

- 豊平川の自然環境とも近接しているが、公園等の緑は不足している。
- 青空平面駐車場などが多い一方で、公園などのパブリックスペースは少ない。
- サッポロファクトリーなどの歴史資源が立地している。

・大通東5丁目青空駐車場

・サッポロファクトリー
出典：サッポロファクトリーHP

・旧永山武四郎邸
出典：ノーザンクロスHP

・あそぶべ公園
出典：札幌市公園検索システム

※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用もしくは事務局にて撮影したものです。

第１回検討会で頂いたご意見

第2回検討会資料

		ご意見	対応方針 ■ ：本日資料にて追加分析（本：本編　資：資料編） □ ：今後対応
検討会の進め方	No.1	現状の課題を基に将来像の検討を行うのではなく、将来像を実現する上でどのような課題があるかを整理するべき。	■ 【本P6-9】3-2　ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像・課題分析
	No.2	当検討会で何をミッションとして議論するのか明確にすべき。	■ 【本P2-3】対象エリア・策定の目的・本日の論点、本検討会での議論の枠組み
	No.3	議論の範囲はどこまでか、計画の進め方と併せて議論すべき。社会実験的に理想像を実現してみて市民に評価してもらい、さらに実現に向けて検討するという方法もあるのでは。	
はぐくみの軸全体の在り方、理念や将来像、重視すべき価値観について	No.4	時代の変化のスピードはとても速い。100年先の姿を具体的に考えるのではなく、時代の変化に合わせた柔軟な考え方が必要。	■ 【本P4】はぐくみの軸沿道まちづくりの将来像(再整理)
	No.5	重視すべき価値観は横文字ではなく、もっと平易な言葉で分かりやすくしてはどうか。	
	No.6	軸上に色々な要素が連なり、軸そのものとして認識されるような個性を持つことが重要。	■ 【本P5】3-1 ゾーン区分の設定
	No.7	札幌市民はこの東西軸を計画上の位置づけだけではない“軸”として意識しているのかを振り返るところから始めるべきでは。それを踏まえて検討し、最終的に“軸”として意識してもらうのが目標。	
	No.8	“軸”として感じられているか分析するために、目線で撮影した写真があると議論しやすいのでは。	（第１回検討会参考資料）
	No.9	大通公園を核とした都心部はポテンシャルが高い割にアピールできていない。こんな空間があるならここに住みたいと思えるまちにして欲しい。もっと大胆に、欲をもって考えてはどうか。20～30年後に札幌の顔が変わる、というものを目指したい。	□ 次回以降施策の検討を行い、「はぐくみの軸強化方針」にて方針を記載。
	No.10	現状の100mグリッドはエリアの単位として小さく、地上を車で走っていると存在感がなくもったいない。そして大通公園は目的地になっていない。赤れんが庁舎は４街区がまとまり、四方からアイストップとなり目的地となっている。“外に背を向けない”などの小さな努力も必要だが、交通の考え方をもっと大胆に考えたい。	
	No.11	“ウォーカブル”というより“ペデストリアンフレンドリーな空間（＝歩行者にやさしい空間）”を作って欲しい。 もっと人が歩き回れて、沿道のビルに入ると近代的なサービスを受けられるとなれば、このような場所は他にない。	
	No.12	東エリアの潜在力は高いと考えている。土地が低未利用で地価が安いのは、スタートアップの可能性に満ちていることを意味しているのではないか。	■ 【本P9】3-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像・課題分析　東ゾーン
	No.13	冬の資源をどのように今後の街づくりにつなげるのか。地球環境問題を踏まえても、気温や湿度、風などを踏まえてどのように快適な空間を作っていくかが課題。	■ 【資P22】⑪冬の状況
	No.14	テーマとして、「芸術文化」の視点に触れていないのはなぜか。資料館や時計台などの文化施設を大通公園とどのように絡めていくか議論したい。	■ 【資P13】③芸術文化の集積
	No.15	大通・創世交流拠点などで定められている既往計画での位置づけと、はぐくみの軸で定めようとする新たなルールとの整合を整理した上で、検討できるようにしてほしい。	■ 【資P19】⑧形態規制・誘導用途など
周辺との連携について	No.16	はぐくみの軸エリアは東西に長い軸の一部であると捉える必要がある。奥には山並みがあるなど、周辺エリアとの関係性にも着目すべき。例えば近隣で計画されている開発事業などの情報も踏まえて、数十年の変化はある程度捉えて、議論してほしい。	■ 【本P5】3-1 ゾーン区分の設定 ■ 【本P6-9】3-2　ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像・課題分析
	No.17	大通を挟んで開発動向に差がある南北が連携する仕組みが必要。現況の低層部の用途や設えをきめ細かく見ていく必要がある。	■ 【資P21】⑩周辺の開発動向
	No.18	地下を重視するのではなく、地上地下の連携を図り、回遊性をどう高めていくかの視点が重要	■ 【資P14】④沿道低層部の状況
	No.19	大通公園からの滲みだしによる周辺の資源とどのようにつながっていくかが大きなテーマとなる。	■ 【本P5】3-1 ゾーン区分の設定 ■ 【本P6-9】3-2　ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像・課題分析
	No.20	現状、利用のされ方として沿道と公園は全く一体ではない。使われ方の工夫だけでなく、道路断面構成の見直しなど思い切ったことをしないといけないのでは。	□ 次回以降施策の検討を行い、「はぐくみの軸強化方針」にて方針を記載。
	No.21	近隣のマンションで“パーク○○”や“ガーデン○○”など公園を売りにしているものを調べてほしい。将来はそれが“はぐくみ○○”になるといい。	■ 【資P21】⑩周辺の開発動向

第１回検討会で頂いたご意見

第2回検討会資料

		ご意見	対応方針 ■ ：本日資料にて追加分析（本：本編　資：資料編） □ ：今後対応
交通関連について	№22	交通量をどの程度コントロールできるかの議論をすべき。例えば車線減少や公園のさらなる連続化などの議論に繋がる。	■ 【資P15】⑤-1 歩行者交通等 ■ 【資P15】⑤-2 自転車について ■ 【資P16】⑤-3 駐車場出入りの実態、想定される必要駐車場台数 □ 今後の検討事項
	№23	はぐくみの軸へどこからどのようにアクセスしてくるかが重要。外から受け入れるベクトルも同時に見て行ってほしい。	
	№24	創成川以東に延びる地下歩道は活発な活用がされていない。自動車だけではなく人の通行量も併せて見ていく必要があるのでは。	
	№25	大通公園は交通結節点であるという視点で検討を行ってはどうか。車の台数が減っていることを踏まえ、附置義務台数の必要性についても議論もしてほしい。	
	№26	車道でパークレットの実験を行うなど、国も巻き込みながら検討しても良いのでは。	□ 今後の検討事項
景観について	№27	屋外広告について、札幌市では景観保全型広告整備地区が指定できるが、現状では札幌駅前周辺にしか定められていない。	■ 【資P20】⑨景観計画重点区域／景観保全型広告整備地区
	№28	大通公園沿道の街並みに統一性が無い印象。沿道建物も景観的な誘導が必要では。	
	№29	沿道の建物高さについて議論するための分析が必要。	□ 今後必要に応じて分析・検討を行う
	№30	当エリアは風致地区であるが、実際にどのように開発誘導を行うかの議論が必要。	
	№31	テレビ塔からの視点を視点場と位置付けて議論したい。	■ 【資P10】①将来に向けて大切にしたい価値
オープンスペースや公園について	№32	緑被率も重要であるが、活用できるオープンスペースの分析も必要。市民が自分たちでどう活用していくかが重要。	■ 【資P17】⑥敷地内の空地の活用
	№33	起業支援など市の具体の取組にあわせ、魅力的な働く環境を作れるのでは。新しい働き方に対しても大通の使い方の仕掛けが札幌の新しい顔をつくるだろう。	□ 今後の検討事項
	№34	大通公園に関しては、憩いと賑わいの両立、イベント時と日常利用の両立のために、さらなる公園の再整備や連続化も今後考えられる。	（みどりづくり方針と情報連携を随時行う）
	№35	コロナ禍によりやっと市民に使われる公園になってきたと感じる。これまではイベント中心に考えられていたようだ。都心のみどりづくり方針で行っている検討も参考にしていきたい。	
	№36	外側から見た大通公園は閉鎖的である。今後メリハリをつけた再整備についての議論もあるのでは。	□ 次回以降施策の検討を行い、「はぐくみの軸強化方針」にて方針を記載。
	№37	大通公園のみどりの作りこみによっても公園の魅力が変わってくるのでは。ベンチはよく使うが、芝生はあまり使わない印象。	
	№38	“レジリエンス”とあるが、どのような機能を期待するのか。レジリエンスを高めていくより、大通公園の災害時の脆弱性をカバーしていく観点の分析も必要では。	■ 【資P18】⑦災害対応能力関連
	№39	150年間で公園は変わってきたが、“これが無いと大通公園ではない”もの、“これは無くても良い”ものは何かはっきりさせたい。それがより良い公園を作るきっかけになるのでは	■ 【資P10-11】①将来に向けて大切にしたい価値
ゾーン分けについて	№40	ゾーン区分について、南北の骨格軸を境にするのではなく、大通・創世交流拠点を含んだエリアでゾーン設定をすべき。ゾーンを細かく分けると計画が小さくまとまる懸念があるため、もう少し大きな区分でいいのでは。例えば、石山通以西／石山通～駅前通／駅前通を中心として東1辺りまで含んだエリア／創成川以東　など	■ 【本P6-9】3-2　ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像・課題分析

第２回検討会で頂いたご意見

対象ゾーン（事務局振り分け）		no.	テーマ（6つの取組み分野のうち主なもの、その他）	意見の要約（事務局解釈）	対応方針
全体		1	みどり・公園	大通公園の役割をわかりやすく示すため、現状の公園と市民との繋がりを把握したうえで将来像を描くべき	（P4）現状の課題とまとめに現状の分析を記載(左側の枠、最下段)
		2	その他	具体の空間像がイメージできる事例等があるといい	（P5）全体の将来像にイメージイラストを追加
		3	その他	ゾーン別に考えるところと全体で考えるところの整理が必要、ゾーン毎の広がりもそれぞれ違って良いのでは	（P3-14）全体とゾーン毎に分けて将来像を整理
		4	その他	個人の活動を重視した空間の検討が必要	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		5	土地利用	都市機能の複合化・多層化を仕掛けるべき	
		6	エリアマネジメント	最終的な将来像をイメージした上で、実証実験の実施など、そこに向かうステップを検討する視点が必要	
		7	土地利用	官民連携の方策や建物規模による活用の仕方を検討すべき	
		8	その他	冬季のアクティビティを促進するための取組が必要では	
		9	景観	街並みを夜景照明でメイクアップできるとよい	
		10	エネルギー・強靭・防災	脱炭素の記載方針を再整理すべき	
		11	みどり・公園	景観的な方針を整理すべき	
		12	交通	自転車通行帯の在り方を考える必要あり	
		13	みどり・公園	大通北線・大通南線の広場化ができるといい	
		14	景観	建物低層の壁面にあえて凹凸をつける事で魅力向上を図ってはどうか	
		15	みどり・公園	大通公園内設えや植栽、ファニチャーについて見直す必要あり	みどりづくり方針の中で検討
		16	みどり・公園	コスト等を踏まえた緑化に取り組みやすい仕組みが必要	
西ゾーン	共通	17	交通	自転車通行帯を単体の空間として設ける事などを考える必要がある。	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		18		大通に対して自動車出入り口を設けない等の取組が必要	
		19		段階的に道路再編を検討し、公園と沿道のつながりを強化していけるといい	
		20	土地利用	新たな公共空間の使い方にチャレンジする必要がある。公共はそれが実行しやすい環境を整えてほしい	
		21	みどり・公園	大通公園の南北の木々が大通公園の端を印象付け、一体感にとってはマイナス要因になっている	みどりづくり方針の中で検討
	A	22	土地利用	市民がまちの変化を体感するリーディングエリアになるべき	（P7）ゾーンの将来像(案)に追記（象徴性・拠点性）
		23	土地利用	既存の開発と併せた検討をすべき	（P7）将来像実現のために留意すべきゾーン特性に記載あり
		24	交通	回遊の表現を各場所に適した表現に修正すべき	（P7）上位計画に位置づけのある通り（にぎわいの軸・つながりの軸）を強調。注釈にてイメージである旨追記
		25	土地利用	中高層・地下も含めて立体的に公園との一体性を考えるべき	（P7・8）ゾーンの将来像(案)、ゾーンの将来像イメージに追記(【沿道の賑わい、公園との一体性】)
		26	エリアマネジメント	官民連携で将来像を議論し、魅力を作り出していくべき	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		27	エリアマネジメント	地域のまちづくり活動との連携とるべき	
		28	みどり・公園	壁面緑化等による特徴的な景観形成があるとよい	
		29	交通	交通について、駐車場の考え方や歩道のあり方を議論していくべき	
		30	土地利用	市役所本庁舎周辺街区の今後の在り方の議論も意識すべき	
		31		テレビ塔基壇部による創成川を挟んだ東西の空間の分断	
		32	みどり・公園	メリハリのある緑化とすることが大事	みどりづくり方針の中で検討
		33	みどり・公園	長期的なビジョンで大通公園の連続化を描くことはできないか	

第２回検討会で頂いたご意見

対象ゾーン（事務局振り分け）		no.	テーマ（6つの取組み分野のうち主なもの、その他）	意見の要約（事務局解釈）	対応方針
西ゾーン	A、B	34	みどり・公園	多様な緑化手法を、敷地の規模や機能に応じて選択できるメニュー的なものの提示が必要	みどりづくり方針の中で検討
	A、B、東	35	土地利用	色々な広場の在り方を見本市のように見せられるといい	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
	B	36	土地利用	イベント中心からライフスタイル中心へと、まちの在り方の転換が必要になってきている	（P9）強化の考え方を修正
		37	土地利用	ゾーン特有のキーワードが示せていない	
		38	土地利用	都心居住とビジネス関係が混在する特性を活かして新しいライフスタイルを楽しめる場、という位置づけがあるのでは	
		39	その他	何を優先して将来像を考えるかが重要	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		40	土地利用	低層部は切り分けて検討したい	
		41	その他	施策展開について、もう少し広い視野で検討する必要がある。	
		42	エリアマネジメント	市民や来街者との多様な交流をマネジメントする仕組みも必要	
		43	その他	人が増えることによる影響も考慮したい	
		44	交通	路面電車との接続性、繋がりの強化	
		45	景観	高さの考え方を明確にすべき	
		46	みどり・公園	イベントの染み出しの為プレハブなどのコントロールが必要	みどりづくり方針の中で検討
	C	47	土地利用	西Cゾーンを核とした広がりをイメージして検討をすべき	（P11） ゾーンの将来像(案)に追記(【都心西側の回遊拠点】)
		48	土地利用	北側、知事公館・近美等とのつながりを位置付けてはどうか	
		49	土地利用	南側をリノベ拠点や市民も参加できるアートの場としてはどうか	（P11） ゾーンの将来像(案)に追記(【歴史と文化が漂う風格ある景観】)
		50	土地利用	土日の閑散の解消の為にもアートなまちになるのは良い	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		51	土地利用	中央区役所の建て替えを踏まえ、南側にも広い視野で検討をする必要あり	（P11） ゾーンの将来像(案)の図中矢印にて表現
		52	土地利用	文化芸術について社会包摂的な視点も含めて取り組めると面白い	（P11） ゾーンの将来像(案)に追記(【歴史と文化が漂う風格ある景観】)
		53	その他	西Cゾーンは実験的なエリアにできるポテンシャルあり	
		54	土地利用	大規模な公有地が公園に面しているという特徴を生かしていくべき。	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		55	景観	資料館から山並みの間の建物もコントロールしていく必要あり	
東ゾーン		56	交通	東四丁目線の表現を修正してほしい	（P13）直線に変更した上で「（整備予定）」と追記
		57	交通	場所に適した回遊性の矢印の表現としてほしい	（P13）当該平面イメージは概念を表すものであるため、よりエリアを絞らない概念的な表現に修正し、注釈を追加
		58	みどり・公園	方法は公園自体の延長にとどまらず、機能や量など何らかの方法で緑のネットワークを繋げていくといい	（P14）ゾーンの将来像イメージに説明を追加
		59	土地利用	駐車場等を若者チャレンジの場などとして提供する仕組みが出来ると良い	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		60	交通	道路の工夫により、豊平川までの自転車・歩行者の連続性を強化する事も必要	
		61	交通	歩行者の為の道路空間の再編の取組が必要	
		62	土地利用	マンションの公開空地について、望ましい在り方を示す必要あり	
		63	土地利用	土地区画整理事業等を活用し、ゆとりのある空間を増やしてはどうか	
		64	景観	創成東にも高さの規制を設ける必要あり	

第３回検討会で頂いたご意見

テーマ （事務局振り分け）	no.	意見の要約 （事務局解釈）
P2 対象エリア、計画期間、計画の位置づけ	1	他の骨格軸等との関連の中でのはぐくみの軸の重要性が市民に伝わり、はぐくみの軸強化について考えるべきだと共感して貰えるシナリオを整理すべき
	2	対象エリアの図を、東西南北の少し広めの範囲も含めて表示し、周辺のみどりや機能・歴史性との関連を可視化し、その中でのはぐくみの軸の重要性を表現すべき
P4 現状と課題のまとめ	3	歴史の振り返りをしっかりと行い、大通の歴史性や固有の価値をいかしていくことの重要性を強調し、今後のあるべき姿への繋がりが分かる書き方にしてほしい
	4	明治開拓期から名残が残る、大通の北側は官／南側は民／それを繋ぐ空間が大通、という発想も重要
P5 はぐくみの軸全体の将来像	5	将来像３では、大通公園を利用する行動パターンが違う人たちを想定し、公園利用の目的分析から、何が必要かを検討して分かりやすい言葉で示すべき
	6	イベント時や日常など、季節や時期による使われ方の違いなども盛り込むべき。市民が公園に日常的に集う豊かなライフスタイルは、人々の定住や観光客の増加などに繋がる。
	7	将来像４について、これまでの検討会でも意見のあったウォーカブル空間の強化や時代に合った交通手段などの大切さが分かりやすいよう、「道路空間の柔軟な活用」などのキーワードを入れてはどうか。
	8	道路と公園の一体感の持たせ方がイメージしにくい。沿道建物の１階に賑わい空間を設けるのであれば、道路の横は危ないイメージがある。車道を集約化してしまうなども一つの案では。
	9	将来像５について、物理的に植栽が繋がるだけでなく、どういった「みどり」が良いのか考えるべき
	10	将来像のイメージ図は誤解を与えない表現にすること
	11	将来像６の「多様な主体の連携」はもっと踏み込んだ表現にし、様々な関わる人たちと意見交換をして考えていくフィールドも用意しながら進める、という内容を入れてほしい。
	12	将来像の中で、もう少し地上と地下との連携について言及してほしい。
	13	計画の時間軸を明確にしてほしい。遠い将来には高い目標を設定し、その上で20年間での計画を考えてはどうか。
	14	６つの取組分野で分類する事が分かりやすいか、表現を再度検討すべき。
	15	取組み分野や理念、ゾーン毎の説明に繋がりやすいよう、将来像の各項目を一言で表すキーワードを明確にしては。
	16	計画の論理展開を整理すること。大通の役割、行政計画から導き出される視点、時代のトレンドなどと課題をあわせて、何が求められているかという視点から将来像を描いてほしい。
	17	将来像１と将来像２は文章のつながりがおかしい。改めて方向性を整理すべき。
	18	将来像５でみどりの展開と都市の強靭化はひとまとめにできないのでは。将来像３がみどりと結びつくほうが伝わりやすいのでは。
	19	この方針の内容は市民の方に正しく伝わらなくてはならない。キーワードや表現の整理も含め、本来の方針の目的に立ち返って構成の精査をしてほしい。
	20	将来像の文が長いのでは。もう少しコンパクトでキャッチ―な見出しになるといい。
P6以降 ゾーン毎のまちづくりの方向性	21	沿道空間がゾーン毎に分かれるのではなく、大通公園の連続性をつくっていくことも考えていくべき
	22	ゾーン毎のイメージ断面の意味合いや、表現の方針について再度整理すべき。
	23	全体の将来像とゾーン毎の将来像の関係性の整理が必要。表現の抽象度にもばらつきがありわかりにくい。
	24	方針策定に向けて、記号の意味や用語の使い分けについてもきちんと整理していくこと。
	25	ゾーン毎のイメージ図の違いが理解しにくい。補足が無くても分かりやすい表現にすべき。
	26	全てをゾーン毎に分けて考えるには無理がある。軸全体で考えるべき事とゾーン毎に分けて考えるべき事を整理すると分かりやすくなるだろう。
	27	ゾーン毎の断面図では特にみどりの変化が分かりにくい。全体の将来像のイメージは分かりやすいため、ゾーン毎の方も上手く表現できるといい。
全体の構成について	28	歴史や現状・課題から、まちづくりの理念や将来像がどういう繋がりで導き出されているのかわかりにくい。将来像を描くプロセスについても分かりやすく表現すべき。

資料編―５　検討会委員名簿

（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会委員

（五十音順・敬称略）

No.	氏名	職等	分野
1	愛甲　哲也	北海道大学大学院農学研究院　准教授	みどり
2	石塚　雅明	株式会社石塚計画デザイン事務所　顧問	景観・地域まちづくり
3	岡本　浩一	北海学園大学工学部　教授	都市計画・景観
4	高野　伸栄	北海道大学大学院工学研究院　教授	交通
5	西山　徳明	北海道大学観光学高等研究センター　教授	都市計画・観光
6	藤井　將博	札幌商工会議所　住宅・不動産部会　副部会長 （株式会社藤井ビル　代表取締役）	経済
7	村木　美貴	千葉大学大学院工学研究院　教授	都市計画
8	森　朋子	札幌市立大学デザイン学部　准教授	景観
9	門田　高朋	独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部北海道まちづくり支援事務所　所長	都市開発